

第3回 理事会

日時：令和元年6月21日(金)12:00~12:50

場所：東京大学柏キャンパス 新領域環境棟FSホール
会議室

出席者：脇坂会長(議長)、木方副会長、向山副会長、清水
常務理事、伊藤、稲垣、太田、大谷、大沼、奥村、
小俣、北田、黒木、小松原、金、鈴木、高橋、
徳永、中曽根、原、舩山、和田各理事、
野村、齋藤各監事

欠席者：長田、遠田各理事

(理事24名中22名出席(過半数)により理事会は成立)

陪席者：熊谷(事務局)

議事内容：

1. 前回議事録の確認

- ・令和元年5月20日開催の第2回理事会の議事録案について承認した。

2. 審議事項

1) 会員状況及び新入会員の承認

- ・事務局長から6月20日時点の会員状況について説明があり、5名の正会員の入会を承認した。
- ・5名の正会員退会者、1名の学生会員退会者、1名の名誉会員退会者(ご逝去)があり、6月20日時点では、正会員1,848名、学生会員32名、名誉会員60名となり、総数は1,940名であることを確認した。

2) 日本応用地質学会表彰について

- ・常務理事から日本応用地質学会表彰に関する「名誉会員選考及び表彰規程」の改定について説明があり、前回の理事会で指摘の事項を修正・加筆した案を承認した。

3) トラブル等の再発防止に向けた仕組みについて

- ・常務理事から、「トラブル等発生時の対応手順と再発防止に関する共通内規について」が説明された。前回理事会における指摘事項を踏まえた修正案である。
- ・第3条の一に定める対応チームに副会長を追加すること、二において委員会、研究部会の他に災害調査団を加え、それに応じてトラブル対応責任者に調査団長、対応チームに副団長を加えることで、内容を承認した。
- ・トラブル対応責任者が当事者となる場合が考えられるか、この点については総務委員会で今後検討することとした。

4) 会誌「応用地質」及びそれ以外の出版物の著作権譲渡について

- ・常務理事から、「著作権譲渡」について過去の会告を調べた結果、下記に示すように本部発行のあらゆる印刷物の著作権は、学会に譲渡されていることが

報告された。

①「応用地質」第50巻 第3号(8月号)：2009年(平成21年)

会誌「応用地質」全巻全号電子アーカイブ化に伴う著作権委譲に関する告知(お願い)

②会誌「応用地質」第51巻 第3号(8月号)：2010年(平成22年)

会誌「応用地質」以外の出版物の著作権委譲に関する告知(お願い)

- ・会告の内容を会員に周知するため、説明文と上記の2つの会告を学会ホームページに掲載することとし、文案を総務委員会で準備することとした。
- ・上記会告では適用範囲を本部発行の出版物に限っているが、支部にも適用することとし、各支部において対応することとした。
- ・支部発行の会誌、出版物は、年度末で良いので本部に送付頂くこととした。

3. 確認事項

1) 収支状況

- ・事務局長から令和元年度5月期の本部収支が説明された。
- ・会員収入は予算の81.1%まで伸び、昨年に比べてやや少ないがほぼ順調に推移している。
- ・支出については特に予算通りであり、問題は見当たらない。

2) 令和元年度研究発表会準備状況について

- ・担当理事から、令和元年度研究発表会(長岡大会)の準備状況について8月号に掲載予定の会告案のもとに説明があった。
- ・担当理事から、研究発表会前日の10月23日18:00から、アースサロンを行うことが説明され、理事各位が関係する若手会員に参加を促して頂くよう要請があった。

3) 委員会、研究部会、支部名簿について

- ・常務理事から、最終版の令和元年度日本応用地質学会名簿(常置委員会、研究部会、支部)の説明があった。改訂作業はこれを持って終了とする。以降の修正は令和2年度に行う。

4. 本部からの報告事項

1) 他学協会からの依頼

- ・「一般社団法人女性科学者に明るい未来をの会」から、「2019年度第40回猿橋賞」の受賞候補者推薦依頼があり、現時点では候補者の人選が難しく、応募しないことが報告された。
- ・文科省から「令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰」の推薦依頼があり、人選及び応募に向けた体制が整わないため今年度の応募は見合わせるこ

が報告された。今後、速やかに対応できるようにするため、あらかじめ候補者を選定しておくこととした。

- ・物理探査学会から、「2019年度物理探査セミナー」後援の依頼があり、承認したことが報告された。

2)地球惑星科学連合関連

- ・木方副会長から、5月28日開催の「日本地球惑星科学連合第20回学協会長会議」の参加報告があり、以下について説明があった。
- ・公益法人となった学協会の中には、公益法人格を維持するために監督官庁から厳しい条件を求められており、対応に苦慮されている。
- ・関連する各学協会の会員数の推移や年齢構成をとりまとめるため、情報提供の要請があった。

3)学術連携体関連

- ・向山副会長から、6月13日開催の「防災学術連携体

2019年度総会」の参加報告があり、2月より新たに水文・水資源学会が加盟したこと説明された。

4)福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会関係

- ・常務理事から、福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会が共催する「日本原子力学会交流イベント「富岡について一緒に考えていきましょう」」の説明があった。

5)将来構想委員会準備会関係

- ・資料配付のみ

5. 各委員会・支部・研究部会・小委員会からの報告事項

- ・委員会、支部、研究部会、特別委員会から資料の提出があった。
- ・総務委員会、事業企画委員会、応用地質学教育普及委員会、北海道支部、中国四国支部
- ・火山地域の応用地質学的諸問題に関する研究小委員会